

◆司会

それでは、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい、わかりました。よろしくお願いいたします。今日の話題は3つあります。まず、最初は、令和3年度の11月補正予算の内容です。これは財政局から、もう、記者レクが行われていると思いますが、私から今日、正式に発表いたします。

今回の補正予算は、一般会計がおよそ22億2,300万円増、特別会計が2,100万円減、総額では22億円となります。

今回の補正予算案、ポイントは2つあります。

まず1つ目は、やはり新型コロナワクチン接種事業です。一般会計22億2,300万円のうち、およそ16億8,000万円を本年度中の3回目の接種にかかる経費として計上いたしました。これは後ほど改めて説明いたします。

2つ目が大浜公園のリニューアルです。今から4年後ですね、2025年、令和7年7月のオープンを目指して、本年度より整備費等にかかる23億7,000万円の債務負担行為を計上いたしました。記者の皆さん、ご存じでしょうか。大浜公園は今からおよそ90年前、1929年、昭和4年に旧静岡市と旧大里村が合併したその記念事業として、昭和5年に整備された公共施設であります。神奈川県に大磯ロングビーチがありますが、そのはしりですね。海の近くにプールがあるということですね。この公園内のプールは、その合併をきっかけに廃止された大浜海水浴場の代わりとして、長い間、子どもたちがプールで泳いで周りの店でおでんを食べるというのは、静岡市のいわば夏の風物詩だったわけです。そんな長年愛されたプールも老朽化が進んできました。そこで市民の皆さんから、「プールを存続してほしい、大浜エリアを一年を通じて賑わいのある地域としてほしい」、パブリックコメント等々を通じてたくさんの意見をいただいております。そこで私の市政運営の中のABCですけれども、公設公営だけではなくて民間の皆さんのアイデアとか、ノウハウを活かして集客のある施設にしていこうと、これ、城北公園も同じですけれどもね、そんな流れの中で民間事業者を公募し、公園全体のリニューアルを進めていきたいと思っております。

その内容は、概略を申し上げますと、これまでも人気のあった流水プールやウオーター 슬라이ダーをはじめ、レジャーとしてのプールの魅力を高めていくためにアトラクションプール、これ、民間からの提案によるものですが、アトラクションプールを整備します。一方、コロナ禍の中で設計が始まりますので、トイレや洗面所ですね、センサーによる自動制御方式にして感染症対策にも配慮した整備を進めます。公園全体

としては、子育てとか健康づくり、地域の憩いの場としての機能も向上させていただき
ます。付随して芝生の広場とか遊具なども整備するとともに、常設のパーキングエリア
ですね、駐車場や、これも民間からの提案によるカフェとかレストランなども新しく
整備する予定です。また、大浜海岸を活用したイベントの開催、「まちは劇場」という
ことでのコラボレーションもあろうかと思えます。賑わいを生み出すための提案もこれ
から求めていきたいと思えます。

このリニューアルのテーマは、これ、職員の発案らしいのですけれども、「夏に来たい！
毎日来たい！みんなの”きたい”をかなえる公園へ」ということです。大浜公園地区を
中心に、年間通じて市民の皆さんはじめ、市外からも多くの人々が訪れて楽しめる、
そんな大浜公園にしていきたいと思えますので、ぜひ、またいろいろなご意見をお寄せ
いただきたいと思います。

これが2つの柱でありますけれども、そのほかに今回の補正予算では清水桜ヶ丘病院の
再整備に関連して、JCHOとの土地交換に係る差額の収入、1億9,000万円の都市整
備基金への積み立ても計上いたしました。この結果、予算額の累計は、一般会計がおよ
そ3,453億円、特別会計と企業会計を合わせた総額では6,723億円となりました。以上
が補正の概要です。

次は、新型コロナワクチンの3回目の接種等の進め方についてです。これはスライドを
用いて説明いたします。まず3回目の接種の対象者は、2回目の接種を終了された方、
およそ54万人の市民であります。最初に医療従事者の皆さんの接種を12月1日から
スタートします。そして、市民の方は高齢者施設に入所中の方など、早い方で来年2月
から接種をスタートできる予定です。2回目の接種から8か月以上経過した後が3回目
の接種の時期となるということです。接種券につきましては、概ね、その1か月前
から順次、市民の皆さんのお手元に届くようお送りいたします。また、予約の集中を
避けるために分割しながら発送するという事も目下検討中であります。それも1回目、
2回目さまざまな試行錯誤をしました。その中で市民の皆さんから大変厳しいご指摘も
いただいております。その原因を踏まえ、検証したうえで、今度は満足度の高い第3回
目の接種をしていきたいと思っています。

その施策として、まずコールセンターのオペレーターを10名増員いたします。電話番
号も、予約専用回線を新しく3回線開設します。混雑の緩和に努めていきます。一方、
ウェブ予約については、これも既に発表いたしましたけれども、8月にシステムの改良
を行いました。現在、1日最大4万3,000件の受け付けに対応できておりますので、
引き続きこのシステムを運用していきます。

さらに予約の支援、これも充実していきます。窓口、前回来られた方がたくさん
いらっしゃいますので、より多くの方がいらして対応できるような支援体制を取ると
ともに、ご協力いただける民間事業者の皆さんの取組も広くPR、広報いたします。
次のスライドをお願いします。かかりつけのお医者さんや身近な医療機関での接種の希望

にお応えできるよう、これまでと同じ規模のおよそ 300 の医療機関に今回もお願いいたしました。休日や夜間の接種を希望される方、接種が集中する時期に対応するために、常設や臨時の集団接種会場も設置いたします。また、3 回目の接種でも高齢者の皆さんの接種会場への交通手段を確保するために、今回、大変好評だった「らくタク」、タクシーの運賃補助も実施いたします。

最後に、次のスライドですね。新たに 12 歳になる方、何らかの理由で 1 回目、2 回目の接種をされていない方については、来年 1 月以降も接種の機会を提供いたします。現在、具体的な検討を進めておりますので、詳細が決まり次第その都度、保健福祉長寿局等よりお知らせいたします。以上です。

最後に、「静岡市歴史博物館の館長予定者を決定しました」という話題であります。ずいぶん、できてきたかなという感じでありますけれども、これまで「仮称歴史文化施設」と呼んでおりましたけれども、先日の 9 月議会で設置条例の議決を頂きましたので、正式に名称を「静岡市歴史博物館」といたします。その初代の館長予定者を発表いたします。初代館長は、静岡産業大学総合研究所客員研究員の中村羊一郎先生にお願いしたいと考えています。もう皆さん、たくさんの著書もありますので、ご承知かと思いますが、中日新聞さんには連載もされておりますが、先生は、静岡市生まれで静岡市在住、長年公立高校の教壇に立ち、教育や歴史分野に造詣が深く、伝統芸能や民俗学、また、お茶文化や食文化などの研究にも携わってまいりました。これまで歴史文化施設の基本構想検討委員や施設の建設検討委員等を務めていただきました。現在は市長部局で歴史文化拠点推進監として博物館の整備の陣頭指揮を執っていただいております。検討当初から誰よりも、この静岡市歴史博物館のことを熟知している中村先生こそ、初代館長にふさわしいと私は考えております。

次のスライドをお願いします。この博物館ですが、これもご存じでしょうか。元をたどると約 35 年前の 1986 年というから昭和 61 年ですね、検討が始まったものであります。昭和の時代から、歴史資料等々、歴史資源がたくさんある静岡市ですので、それをきちっと将来につないでいく総合歴史博物館が欲しいという要望があったと、私は記憶しております。昭和の時代から施設の機能や建設場所などなど議論を重ね、旧静岡市と旧清水市が合併した後の新たな静岡市の姿を示す第 1 次総合計画にも「歴史文化施設構想」として搭載されております。それが現在まで、様々な事情で時間はかかったわけではありますが、先人の皆さんが築き上げてきた思いが、ようやく今、形になりつつあります。建物の設計は金沢 21 世紀美術館やルーブル美術館ランス別館を手がけた世界規模で活躍をされている SANA A 事務所をお願いしております。

これは 2023 年、令和 5 年ですから、大浜プールよりも 2 年ぐらい早いんですね、令和 5 年 1 月グランドオープンを目指し、整備を着々と進めており、建物自身は来年 6 月には完成する予定です。グランドオープンを待つ前にプレオープンという形で、建物が完成した直後の来年 7 月に、一足先にお披露目したいと思っています。4 階建てであり

ますけれども、戦国時代末期の道と石垣の遺構が発掘調査で判明しましたので、それを活かして展示する1階部分をご覧いただけるようにするとともに、通常では見られない展示準備中のプロセス、様子をご覧いただくバックヤードツアーですね、いわゆる、こんなことも企画しております。最も大事なこの令和型の歴史博物館の機能は3本柱であります。1つ目は歴史探究、2つ目は地域学習、そして3つ目は観光交流です。歴史博物館の機能を十分、この3本の機能を十分果たすことができるよう、市長部局、教育委員会、そして今後、議会の議決を頂いた上で決定する指定管理者と三位一体となって連携して、オープンに向けた準備をしっかりと進めてまいりたいと思います。今後もこの歴史博物館に関する情報については、観光交流文化局を中心に、その都度発表いたします。申し上げましたプレオープンやグランドオープンの詳細についても改めてお知らせいたします。私の思いはユニークベニュー、世界レベルで見ると、こういう博物館とか、美術館というのは特別の場所、ユニークベニューということですので、いわゆる学術施設としての博物館だけではなく、そこで結婚式をやったり、夜はバーでくつろいでもらって、文化的なリフレッシュの場にもしてもらったり、いろんな機能も付加して、また、地域学習という点では、子どもたちに社会勉強の一環として、ここへ来て静岡の歴史を学び、誇りに思っ、そして静岡に愛着を持ってもらう、そんな多面的な3つの機能、歴史探究、地域学習、観光交流を追求した意欲的な施設に発展してもらえればうれしいなと思います。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただいまの発表項目につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。大浜公園プールのリニューアルですが、2年ほど前に地元の小学生が大浜公園を、こういうふうに新しくしてほしいという要望、確か温水プールにして通年使えるようにしてほしいですとか、要望を市長室にお伝えに来られて、市長も取り入れるということをおっしゃったと思いますが、結局、小学生の要望は受け入れられたのでしょうか。

◆市長

これについて、所管局から答えさせていただきます。

◆都市局

都市局長の宮原です。大浜公園のプールにつきましては、小学校の方から多くの意見をいただいております。他の方のパブリックコメント等も頂いていますが、その中で大浜

公園のプールについては、今おっしゃったように温水プールという話とか、あとはたくさん使うので料金を地域の方々は安くしてほしい、というご意見もありました。そういう意見をトータル的に踏まえまして、温水プールについては、なかなかコストの面等で難しいのですが、近隣の利用者が多い方について料金の設定、いろんな方法があろうかと思いますが、それについては今度、公募しますので、その要件の中に料金について提案していただくような形で改定しております。以上です。

◆NHK

子どもたちに、確かあのとき市長は、「大きくなったときに自分たちの要望が取り入れられたと思ってこのプールを使ってほしい」ということをおっしゃったと思いますけれども、そういったことを子どもたちが実感できるような計画、反映をされたと思っていらっしゃるか、市長いかがでしょう。

◆市長

はい、そう思っています。なるべく多く子どもたちの意見を市の職員が聞いてくれまして、それを反映させるべく、これから整備を進めていきたいと思っています。

◆NHK

それを具体的におっしゃっていただきたいのですが、子どもたちが2年前、市長室で「これを言ってくれたことについて、具体的にこれをこう具体化したよ」というのが、料金の検討部分だけなのか、ハード面で使い勝手とか見た目の面では特に反映されていないのか、意見を聞いただけで特に聞き入れないということなのか。

◆市長

満額回答ということはわかりませんが、私とするとやはりプールを残してほしいとか、あるいはそこで何か飲食ができるものがほしいとか、そんな声も聞いておりましたのでね、そのような仕様にしたつもりであります。

◆NHK

分かりました。

◆都市局

あと、市長がおっしゃったとおり、可能になるものとそうでないものがありますので、それについては検討させていただいております。今、市長がおっしゃったように、シーズンパスポートみたいな設定を、ということは先ほど言ったように要望があったので、実現に向けて検討しているところ、あと、アトラクションプールとか、子どもたち

が楽しむプールについても公募でしっかり提案していただくなど、あとは夏しかプールやっていますが、その中でも、例えば、自転車道に面したりしておりますので、そういうようなものも活用していけると思いますので、多面的な形で皆さんというか、子どもたちも楽しんでいけるようなプールにしていきたいと思っています。以上です。

◆NHK

わかりました。続いて歴史博物館についてですけれども、市長、ユニークベニューとおっしゃいましたが、今おっしゃったような結婚式場ですとか、バーが設けられるのでしょうか。

◆市長

それは例えばの話であって、そういうことではないです。ユニークベニューって、記者ご存じですか、そこが特別の場所で、そこがとても思い出に残る場所で、その特別な時間をその特別な空間で、「公共施設だ、何だろう」というふうに開放していくという一つの公共政策であります。それをこの博物館のほうにも取り入れるように、というふうに私は指示しております。なので、例えば、「希望される方があったら、ここで結婚式をやってもいいじゃない」と、「ここでパーティーをやってもいいじゃない」と、そして、ある一定の時間が、例えば、ナイトミュージアムなんていう試みの中で、動物園のほうではもうやっていますけれども、大人のためだけの博物館ということで、例えば、それがデートスポットになったり、あるいは夫婦が、そこで少しお堀を見て静岡の歴史の雰囲気を感じながらグラスを傾けるとか、そんないわゆる学術施設としての博物館だけではない、ユニークベニューにしていきたいというのが私の思いであります。

◆NHK

いや、これから構想を作るのだったらわかるのですけれど、もう設計が出来上がっている中で結婚式場とかバーとか、パーティー会場というふうにはできるのですか。

◆市長

今、私が市長としてそういうことはできないかということをお願いしており、SANA Aさんのほうにもその思いが届いているというふうに思いますので、そのところ実務的に少し記者の質問に、誠実に答えることができればありがたいですけれども、いかがでしょう。

◆観光交流文化局

観光交流文化局次長の岡村です。よろしくお願ひします。今、市長がおっしゃったユニークベニュー、これはですね、初めからこの場所をそれ用に作るということではなくて、

いわゆる提案という中でこの場所がこんなふうに使えないか、そうした中で非常に雰囲気の良い状況を作って、そこでそうしたユニークベニューをいろいろやっていく、展開していくということです。ですから、まず、こちらは、今、市長がおっしゃられたようないろいろなアイデア、どういったことができるのかということについて、私たちが「じゃあ、そうしたことはSANA事務所等と話して、この場所なら、そうしたことが可能ですよ」とか、「このところでしたら雰囲気非常に良くなりますよ」というようなところを今、検討しております。そうした中で、「実際にそうしたことをやりたい、あるいはやりたいところはありますか」というのは手を挙げていただくというようなことになると思うのですが、そうしたことをやる中で今、市長がおっしゃられたような普通の博物館だけではない使い方、そうしたことをやっていこうと、そういうふうに今、考えているところでございます。

◆NHK

わかりました。この機会に、前回お答えの真意がよくわからなかった部分も併せて伺いますが、ランニングコスト3億円の赤字、建設費62億円ということについて、市長、前回の会見では、「私の真意が分かっていたら赤字がおかしいという意見は出ないはずだ、深い報道をしろ」というお話がありましたけれども、現に寄せられている意見として、このネット時代に子どもたちの学習のためだとしても、ネットの歴史学習コンテンツを充実させればいいのであって、ハコモノ、ましてや赤字のハコモノにこだわる必要はないという意見があるわけですが、そういった意見はもう単なる誤解の意見だということで、市としては耳を傾けるに値しないと捉えていらっしゃるということでしょうか。

◆市長

そんなことはありません。ネットでいろいろな勉強、歴史等を学んでもらうということは大変なことです。ただ、実際その現場に行くと遺構に触れるとか、展示物に触れるということも、コロナ禍の中ですので、今一番、「ああ、やっぱり現場に行くということには実際にフェイス・トゥ・フェイスで対話をするということは大事だな」ということもわかんと思います。そもそも歴史博物館というのは、そういう子どもたちの教育補完機能も持っています。ですので、入館料については市の負担が75%、受益者の負担が25%というふうに算出されているわけですね。ですから、当然ながら収入は運営費よりも少なくなります。ですので、博物館運営はビジネスとしての黒字化ができるものではないということをご承知おきいただきたいと思います。

◆NHK

それは承知していますが、だからどんなにお金がかかってもそれはいいのだと、採算な

んて考えなくていいのだということではない。

◆市長

もちろん先日の質問でもそういう話を申し上げたつもりです。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。発表項目につきましてのご質問、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

3回目の接種についてですけれども、令和4年2月以降の医療機関、集国会場、巡回接種といういろんな接種区分でやっていただけるということで、3回目については、2回目まで職域接種だった方も、こういった3つの選択肢の中に組み込まれるようなイメージでしょうか。

◆市長

ごめんなさい。

◆SBS

職域接種で個別にやっている方々も多分2回目までは多かったと思うのですが、集国会場であったり、医療機関での接種という形がそういった方々も踏まえての対応になるのでしょうか。

◆市長

そうですね。はい、お願いします。

◆保健福祉長寿局

保健福祉長寿局です。職域接種の方々について国のほうでも、今、検討、その取り扱いについてされているところですが、静岡市においても、その動向というのですかね、それは注視していかなければならないというふうに思っています。いずれにしても今、ここの医療機関、集団接種、巡回接種は中山間地ですが、この住民接種の中でも対応できるように、あるいは企業さんのほうで、もし国のほうがそちらのほうでの実施も検討するという方向が出れば、また企業のほうでも力を合わせて一緒に進めていきたいというふうに思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思います。産経新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆産経新聞

産経新聞です。幹事社質問で2点お伺いします。

1点目は、今回の11月補正予算案も含めて、新型コロナウイルスで疲弊した地域経済の再生に向けた、いわば“暮らし”を守る部分の再生について、市長自身の基本的な考え方をお聞かせください。もう1点はそれに関連して、懸念される第6波に備えて、病床確保、検査体制など、具体的な現時点での取り得る対応についてお伺いいたします。よろしくお願いいたします。

◆市長

まず、速報値ですけれども、現在2回目の接種率が70.17%まで上がってきました。本当に皆さんのおかげさまで感染状況が落ち着いております。しかしながら、“いのち”を守る意識と行動、感染予防対策の徹底はこれからも進めていきますが、一方で、ご指摘のとおり、“暮らし”、経済を回していく、この取り組みもアクセルを踏んでいかなければなりません。これからのウインターシーズン、市内の多くの方々に静岡市を満喫していただき、また、市民の皆さんにも、まちに繰り出していただき、買い物や飲食などを楽しんでいただきたいと思っております。そして、まち全体の賑わいを取り戻すよう、2つの切り口、観光誘客と消費喚起という観点から取組を進めてまいります。観光誘客については、これも前回の会見でお知らせしたとおりですが、「静岡市はいいねえ。しずくキャンペーン」を強力にPRしていきます。今月から、市内を目的地とする団体旅行などを実施する旅行業者の皆さんに対する助成を行い、宿泊を伴う市内への誘客の促進をしてまいります。一方、消費喚起につきましては、青葉シンボルロードやエスパルスドリームプラザで、今週末から冬のまちを彩るイルミネーションが始まりますので、そんなことで、ぜひ見に来ていただきたいと、それが消費行動につながることを期待しています。

2つの事業をやっていきたい、消費喚起についてですね、消費喚起について具体的に申し上げますと、1つ目は「モバイル決済サービスを活用した地元の消費拡大の促進事業」であります。PayPayと連携したエール静岡対象のお店で最大20%が戻ってくるキャンペーンの第2弾を今月19日から1か月間実施いたします。

2つ目は、「地域消費促進キャンペーン事業」です。年末年始の商戦の勢いを落とす

ことがないように、来年の1月下旬からバレンタインの時期まで、まちなかでお買い物された方に抽選で地場産品が当たるキャンペーンとか、先ほどもきっかけになったらいいなと願うイルミネーションと連動した、そんなイベントを計画しております。これらの2つの施策に加えて、中小企業の支援につきましても引き続き資金繰りやデジタル化の支援、雇用対策を継続して行っていく、企業の経営基盤強化に向けた支援、経済を開く、そんな下支えもしていきたいと思っています。

◆産経新聞

市長、もう一点のほうの備えの部分についてはどうでしょう。感染流行に備えた。

◆市長

それについては国から、第5波と同じ程度の感染拡大を想定した保健医療提供体制の整備を本市は求められております。現在、第5波で明らかとなった課題を踏まえ、医師会や県と連携し、今月末を目途に体制を構築する予定です。とりわけ自宅療養者への対応については市として力を入れてまいりましたので、今後も在宅ドクターサポート事業における健康観察業務を、さらに充実していくことをはじめ、抗体療法の一層の推進を図ってまいります。

一方、中等度以上の患者のための病床の確保、入院待機ステーションや宿泊療養施設の確保については、引き続き県との連携が肝要だと思っておりますので、そんな対応をしてまいります。さらに、保健所の体制については医療機関との役割分担や、業務の委託化をさらに進め、そこに仕事の負担が大きくなりすぎないように、本来の役割である感染拡大防止に注力してもらえるような環境を整えていきたいと思っております。以上です。

◆産経新聞

ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問に関連するご質問があればお受けしたいと思います。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。今、2回目の接種率が70.1%まで上がったというご説明をいただいたのですが、一昨日の11月7日までに2回目の接種で54万人ですかね、目標を掲げていらっしやったかと思うのですが、2回接種完了のどのような実績というか、成果を上げられたかというのを、ご説明いただければと思います。

◆市長

国の接種率は超えました。それは成果だと思っています。最初、出遅れましたけれども、よくここまで持ち直してくれたなというふうに思っています。これは、各医療機関などが一昨日までにVRS、ワクチンの接種記録システムに入力していただいた速報値です。第1回目の接種者数は53万6,140人、正確に申し上げますと、接種率は77.22%となっていますので2回目の接種率もほぼこの数字に近いところにあるのではないかなというふうに期待しております。補足があればお願いします。大丈夫ですか。はい。

◆司会

その他いかがでしょうか。幹事社質問に関連してのご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問があればお受けしたいと思います。朝日テレビさん、お願いいたします。マイクをお願いいたします。

◆朝日テレビ

朝日テレビです。よろしくお願いします。現在、与党が18歳以下の子どもへの一律10万円給付と、マイナンバーカード保有者に3万円分のポイントの付与を検討していますが、この政策についての市長の所感をお願いします。

◆市長

総選挙の公約を各政党掲げた上で議論が始まったと承知しておりますので、それについて見守っていきたいと思っています。

◆朝日テレビ

これが現実となった場合、市役所の事務作業というのがかなり急増すると思います。それと同時にマイナンバーカードの申請も増加するでしょうし、それについてのお考えはどうですか。

◆市長

おっしゃるとおりですね、前回そうでした。ですので、それに係る事務事業費、これもきちっと国が手当てをしていただきたいなということを要望しています。

◆朝日テレビ

もう一点いいですか。川勝知事の「御殿場市にはコシヒカリしかない」という発言に対して、県民や県議会から批判の声が上がっていますが、この一連の発言について市長はどうお感じになっていますか。

◆市長

そうですね、大変残念に思います。知事さんですからね、県内全市町、全県民に寄り添っていただきたいなと願っております。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。お願いします。緊急事態宣言が解除されてから1か月ちょっと経ちまして、市も今、予算でいろいろ消費喚起策を打ち出していて、県のほうも Go To Eat などが再開していると思うのですけれども、一方で、まちなかの飲食店などでは全然客足が戻ってきていない、というような声も聞かれています。その飲食店などは市長が率先してまちへ出ていってくれというようなことも言っていたのですけれども、実際、市民の方や職員の方もまだまだ感染が怖いという思いもあるかと思うのですけれども、市長のお立場で、「それでもやっぱり行ってほしい」というものなのか、「様子を見ながら」ということなのか、何か市長からメッセージがあればお願いします。

◆市長

私自身、感染対策を徹底した上で飲食店を利用していきたいと思っています。先ほど経済の活性化策も申し上げました。市の職員に対しても、感染対策を徹底した上で、ぜひ飲食店を利用してほしいと、両替町や繁華街に近いところに市役所ありますので、ぜひ利用してほしいというふうに思います。おそらく習い性になっていると思うのですね、何となく今まで家飲みで2年ぐらい来てしまった。なので、宣言が明けたからといって、そっと元に戻るといったことはないのだろうと思います。

しかし、市長が率先して飲食店を利用していきますので、市の職員も感染対策は気を付けてぜひ利用していただきたいと、それが飲食店の願いでもあろうかと思っています。

◆司会

産経新聞さん、お願いいたします。

◆産経新聞

産経新聞です。市長、今の話に関連してですね、今の発言でいくと、年末年始、忘年会、新年会などは市職員の皆さんもできるだけ地元の飲食店を利用してやってくださいよという、当然、感染防止策は徹底した上でという理解でよろしいですか。

◆市長

そうですね。ぜひ利用して、経済の活性化に貢献していただきたいと思います。ただ、節度のある範囲で。

◆産経新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。松坂屋静岡店に都市型水族館が計画されていると報じさせてもらったのですが、静岡市も学術的機能を重視した水族館などの機能を持った海洋文化拠点の整備を予定されていると思うのですが、この重なりというか、ターゲットの重なりとか、その辺は何か感じていますでしょうか。

◆市長

そうですね。松坂屋さんもいろいろマーケティングされて、アンケートも採っているようですね。そうするとやっぱり水族館機能を求める声が多かったというふうに側聞しています。ただ、私どもも物流のイメージの清水港に、このごろの言葉でいう人流ですね、ウォーターフロントで人の賑わいを作っていく、クルーズ船の寄港地としても活性化していくためにどんな施設が必要ですか、というふうに聞いたところ、やっぱり水族館機能を求める声があったのですね。日本平にすごくいい動物園があるから水族館も欲しいということなのだろうと思います。だからそういう中で、今回、我々は東海大海洋学部とJAMSTECと三位一体で多面的機能を持った水族館を整備しますが、松坂屋さんは都市型的水族館であります。例えば、我々の売りである駿河湾の神秘ですね、水深2,500メートルで、JAMSTECの研究者も大変関心の高い駿河湾の神秘をきちっと見せられる、そういう海洋文化施設にしていきたいと願っておりますので、松坂屋さんにもそんなことを考慮に入れて、何かコラボレーションができれば相乗効果が生まれるのではないかなというふうに期待しています。

◆中日新聞

そうすると、同じ水族館機能ということで必要性が揺らぐというか、その辺のお考えはどうでしょうか。

◆市長

むしろ相乗効果が高まるということを期待したいと思います。松坂屋さんの社員の皆さんもSDGsのバッジをつけていらっしゃいます。やはり事業性と公共性を両立させたような経営をしていきたいという考えだと承っていますので、目標 17、パートナーシップで1つのバリューを追い求めていこうという点では、相乗効果になるというふうに私は期待しています。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSです。リニア工事ですけれども、先月に続き昨日も事故が起きていまして、この相次ぐ事故について、市長はどのように受け止めていらっしゃいますか。

◆市長

そうですね、残念ですね。本当に安全管理を徹底した上での工事を求めたいと思っています。

◆SBS

こういった事故の可能性、リスクがあった上での静岡県内での工事にもなると思うのですけれど、そこへの懸念などありますか。

◆市長

もう、再発防止を講じていただきたいなということをお願いいたします。やっぱり、今まで日本、戦後、黒部ダムのおきもそうでしたし、映画化にもなりましたよね。本当に技術的な難易度の高い工事にチャレンジをして『プロジェクトX』で取り上げられた、そんなことの繰り返しの中で、一つ一つ技術立国との日本の地位を確固たるものにしてきたのだらうと思います。大きく歴史観をもってこの工事を見ると本当にご苦労されているし、また、亡くなられた方にはお悔やみを申し上げたいというふうに思います。

◆SBS

ありがとうございます。すいません、もう一点だけ。市役所の職員野田容疑者が、役場であったり、市役所に忍び込んで現金を盗んでいた事件があったと思うのですけれども、ちょっと気の迷いだというレベルではないなというのが正直な印象でして、上司として、トップとして、市長として、この事件についてはどう受け止めていらっしゃいますか。

◆市長

本当に申し訳ないというふうに思っています。東海市長さんにも私、直接おわびの電話を入れさせていただきました。

◆SBS

実際、今、静岡市役所、支所とかもあると思うのですけれども、そういったところでの被害などは確認されていないのでしょうか。

◆市長

ええ、それは今のところありません。少し総務局長から実務的に答えていただけますか。

◆総務局

総務局長の渡辺と申します。本人とは11月4日に接見できまして、話はさせていただきましたけれども、静岡市役所内の被害の状況やそのほかの被害の有無については、警察の捜査に支障が生じるおそれがあるということで、お答えすることをちょっと、今、差し控えさせていただきたいというふうに考えております。

◆SBS

接見できたときの会話であったり、話したことはどんなことでしょうか。

◆総務局

まず、実際に新聞報道であった内容というのは事実かということの確認であったりとか、今の心境であったりとか、そういったところを中心に、短時間ではありましたが話をすることはできました。

◆SBS

それについては何と？

◆総務局

「申し訳なかった」というような話です。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

それではですね、どうしても一問ということでもよろしいですか。

◆市長
どうぞ。

◆司会
では第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ
すいません、静岡第一テレビです。桜ヶ丘病院の移転予定地の東口公園の改修工事が、市民の皆さんの反対があって、今、止まっているというふうに担当課さんからお聞きしました。市として市民に理解してもらえるような説明の場というのは、改めてですけども今のところ考えていらっしゃいますか。

◆市長
私自身は色々な媒体、色々な機会を通じて説明してきたというふうに自負しておりますが、「いや、納得できない」という方がいらっしゃるのも受け止めさせていただきます。今回、中断した作業というのは仮囲いの準備作業ですので、工程に与える影響もそんなに多くありませんので、やはり集まった市民の皆さんの安全性を考慮しまして、今回、いったん中断させていただきました。

◆司会
それでは、以上で本日の市長定例記者会見を終了させていただきます。次回は11月26日、11時からの予定となります。本日はありがとうございました。